植木病院だより

Vol.24
平成28年7月

発行所 〒861-0136 熊本県熊本市北区植木町岩野285-29
TEL096-273-2111 FAX096-272-2117
熊本市立 植木病院
発行人 内野良仁





院長 内野 良仁

此の度の熊本震災により被害を受けられました住民の皆様、医療機関や施設の皆様には心よりお見舞い申し上げます。植木病院も給水タンクの損傷や内壁の一部損傷などがみられ、大変ご迷惑をお掛けいたしました。エレベータや飲み水の使用制限はありましたが、病院機能はほぼ保たれており幸いに診療を継続することが出来ました。広域災害を想定した1階の広い廊下スペースや太陽光発電などが役立っており、夜間の避難所として利用して頂きました。また震災の影響が激しかった熊本市民病院や森都総合病院などから転院を受け入れ、顔の見える連携が如何に大事かも痛感しました。いまだ余震が続いており復興の道のりは長いですが、心をひとつにして乗り越えていきましょう。

遅くなりましたが、ここで当院の新たな取り組みを幾つか紹介いたします。①専従の医療安全管理者を配置し、より安全な医療、より良質な医療を目指して**医療安全管理室**を設置しました。昨年10月から始まった医療事故調査制度にも対応できるようにしました。次に、②**感染防止対策**に向け、専従の院内感染管理者を配置し、感染チームによる週1回の院内ラウンドを行っています。医療安全と感染防止という二本の柱が揃いました。③**地域包括ケア病床**（計14床）を増床しました。大学病院や国立病院等の後方支援という位置づけだけでなく、自宅や施設で療養を継続している患者さんの緊急の受け入れにも対応しています。

昨年12月に④**ＣＴ（64列マルチスライス）を更新**しました。短い撮影時間で広範囲の撮影が可能となります。冠動脈造影いわゆる心臓ＣＴが可能で、昨年更新した心臓超音波機器と合わせ循環器部門の診断に役立っています。消化器内科部門では上部・下部のスコープを各々追加購入し、更に⑤**十二指腸用ビデオスコープ**を新たに購入しました。これにより、胃や大腸の内視鏡治療（ポリープ切除や粘膜下切除）に加え、総胆管結石や胆膵系の診断治療に速やかに対応できるようになりました。

6月より熊本市民病院の整形外科チームが当院の手術室を利用して、股関節（**ＴＨＡ**）の手術などを始めました。術後管理などは市民病院整形外科の竹村健一先生が常勤（病院局内兼務）で対応しています。7月からは熊本市民病院の石川晋之先生が外科部長として赴任されました。消化器外科の手術もこれまで以上に対応可能になると思われます。

当院の基本方針である患者さん中心の医療、そして安全で質の高い医療の提供に向け自己研鑽し、職員が一丸となって頑張っている所です。平成26年度、平成27年度と経営収支は改善しており、更なる健全経営を目指しています。どうか今後とも当院を宜しくお願い致します。

院長　内野　良仁

診療情報だより

最新の糖尿病治療について

今回は最新の糖尿病治療についてのお話をします。最新の治療というと、まず『治療薬』、つまり『新薬』が頭に思い浮かぶ方が多いと思いますが、今回はもう一つ大きな変換期を迎えた『治療指針』、つまり血糖値やHbA1c等の目標についてもこの数年で大きな変化がありましたので、今回はこの2点を紹介します。

まずは治療薬のお話からします。糖尿病の飲み薬は現在7種類もあり、患者さんの病態にあわせて使用しますが、1つの薬で落ち着くこともあれば、3～4種類の薬を組み合わせて治療する場合もあります。そんな中で大きな変化をもたらした薬剤が2009年に発売された『DPP4阻害薬』です。この薬は、その効果と使いやすさが際立ち、現在の日本の糖尿病治療薬で一番使用されているといってもいい薬剤です。

どういった薬か簡単に説明しますと、この薬は血糖値が上がった時だけ効果を発揮して血糖値を下げようとしますが、逆に血糖値が低い時には薬の作用がでないようになっており、そのため単剤使用の場合には低血糖の心配が殆どいらないという大きなメリットがあります。その他にも、従来の薬では体重を増やしやすい傾向にありましたが、この薬は体重を増やすことも殆どありません。また、食欲を少し抑えたり、長期的には膵臓を保護する可能性もあります。さらに、アジア人にはこの薬が効きやすい、といった報告も多く存在します。それなら自分にも！と思う方も多いと思いますが、そこは要注意です。それぞれの患者さんの病態と適応を慎重に考慮してからの投与が必要となります。

次に、2014年に発売された『SGLT2阻害薬』について説明します。これも画期的な薬で、ひとことで言うなら、尿糖をどんどん増やして（糖を体から捨てて）血糖値を下げるといった薬です。従来、尿糖は少ない方が良い、と盲目的に信じられてきましたが、そういった意味では全く<逆転の発想>から作られた新薬です。特徴は、尿糖として1日300～400 kcalを排泄しますので、血糖値はもちろん体重もかなり減少します。ただし、腎機能が正常でないと使用できませんし、尿路感染症や脱水症にも注意が必要となります。

このような新しい薬の登場により、日本人のHbA1c平均値がようやく7%まで低下してきました。これにより、糖尿病であっても健康な人と同じような寿命が確保できるようになりつつあります。

<次に新しい『治療指針』について>

糖尿病で治療中の方は、血液検査のHbA1c（ヘモグロビン・エー・ワン・シー）と血糖値をご存知だと思います。HbA1cは過去2ヶ月間の平均血糖値を反映して上下し、糖尿病管理の上で最も重要な検査の一つです。そしてこれまで、このHbA1cは低ければ低いほど良い、と言われてきました。しかし近年の調査によると、これは条件付きであることが判ってきました。つまり、飲み薬や注射で治療中の方が、**低血糖が全く無いのであれば**HbA1cは低い方が良い、ということです。従って、飲み薬や注射で時々低血糖を起こすような場合は、治療薬を調整し、HbA1cの目標値を少し高めに設定し直す、など患者さん個別の対応が重要であるということです。ショッキングなことに、高齢者の糖尿病患者さんの場合、治療を頑張りすぎてHbA1cを5～6%まで下げると、逆に寿命が短くなるといったデータがあります。最近は色々なデータがマスコミで取り上げられますが、これはかなり信憑性が高いデータです。

以上を踏まえ、HbA1cの目標値は、以前は年齢問わず『6.5%』でしたが、現在は患者さんそれぞれに目標値が異なる、ということです。糖尿病治療中の方は、自分の目標値がどの程度か、主治医に相談されてみてはどうでしょうか。

<糖尿病と癌>

もう一つ、最近の糖尿病関連の話題を。

先日、日本糖尿病学会から『糖尿病と癌』の関連性について発表がありました。
その内容は、糖尿病の患者さんは健康な人よりも、**肝臓と膵臓、大腸に癌が発生しやすい**ということでした。そこで、あえて患者さんに伝えておきたいことがあります。それは、外来で行う通常の血液検査では、生活習慣病（糖尿病や脂質異常症等）については把握できますが、癌については殆ど判らない、ということです。ですので、糖尿病などで病院にかかっているからといって、『癌』に関しても大丈夫！というのは間違いです。ではどうするかと言うと、やはり定期的な癌早期発見のためのドックや健診が必要となります。通院治療中の方は、外来で主治医に相談するのも良いでしょう。

最後になりましたが、当院では糖尿病や肥満症のほか生活習慣病是正のための教育入院を行っています。入院中は食事療法を中心にして、動脈硬化などの合併症チェックを行い、必要な場合にはその方に適した薬剤を選別し開始します。
なお、今回紹介した新薬、教育入院など興味のある方は気軽に御相談下さい。





診療情報だより　CT装置（コンピュータ断層撮影装置）を更新しました。

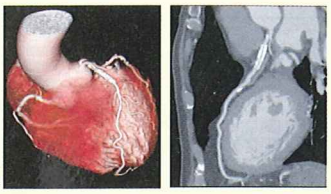
当院では、CT装置（コンピュータ断層撮影装置）の更新により、平成27年12月9日より新しいCT装置が稼動しています。64列マルチスライスCT装置の導入により高速撮影が可能となり、撮影時の息止め時間は従来のCT装置に比べて大きく短縮され、CT検査を受けられる方々の負担は軽減されます。

CT撮影時の息止め時間　胸部CT検査では2～3秒、胸部から腹部CT検査では4～6秒

また、短時間で収集される高精細な画像により、細い血管の描出や、それに伴った三次元（3D）構築など診断に有効な画像が得られることが特徴になります。その性能を活かした検査の一つとして、心臓（冠動脈）造影CT検査があげられます。

【CT装置】

【血管の三次元画像】

【心臓（冠動脈）造影CTの画像】

▼心臓（冠動脈）造影CT検査とは…

64列マルチスライスCT装置の導入後、心臓（冠動脈）造影CT検査を開始しました。造影剤を用いたCT検査の一つで、心臓の動きを確認しながら高速撮影を行っていく心臓の血管を描出するための検査です。検査時間も20分前後と負担も少なくなっています。

＊造影剤のほかに、心臓の動きをCT画像で捉えやすくするためのお薬を使用します。そのため、検査終了後、20分程度お休みいただき、その日の検査が終了となります。

＊心臓の動きを確認していくため、CT撮影時には心電図を装着します。

診療情報だより　エックス線骨密度測定ができます。

昨今、高齢社会をむかえ、それに伴い"骨粗しょう症"が増加しています。当院では、骨粗しょう症の判定に腰椎と大腿骨（太ももの付け根）にて測定を行います。腰椎と大腿骨は、体を支えるための重要な骨です。こういった部位の骨折は、将来的に歩行に障害がでる、寝たきりになる等、日常生活に大きな影響を与えかねません。ご自身の骨密度を把握しておくことは、骨粗しょう症による骨折のリスクを軽減するためにも大切なことだと思われます。

測定は、検査寝台に休んでいただき行います。測定時間も5分以内と短くなっており、体への負担も少なく検査を受けることができます。

平成26年3月にエックス線骨密度測定装置を更新し、骨密度測定を実施しております。

外来からのご案内



健診科

1）人間ドック　（通院２日コース　日帰りコース）
2）生活習慣病予防健診
3）企業健診
4）特定健診
5）各種助成の健診　（熊本市からの助成金有り）
　①乳がん健診　②大腸がん健診　③肝炎ウィルス検査

▶▶▶▶お問い合わせは　電話 096-273-2111　医事班(内線 101)まで

特殊外来

フットケア外来のご案内　（要予約）

内科外来では、糖尿病患者さんのためのフットケア外来を行っております。専門医と糖尿病療養指導士・フットケアの資格を持つ看護師が中心となり行っております。

禁煙外来のご案内　（要予約）

平成 23 年より禁煙に関する総合的な指導及び治療管理を行う禁煙外来を行っております。事前の予約をお願いします。

呼吸器専門外来のご案内　（要予約）

熊本市民病院呼吸器内科の医師が診察を行っております。事前の予約をお願いします。

脳神経外科外来のご案内　（要予約）

熊本大学医学部附属病院脳神経外科の医師が診察を行っておりますので、事前の予約をお願いします。

▶▶▶▶お問い合わせは　電話 096-273-2111　外来　担当者まで

外来診療のご案内

（平成28年7月1日現在）

診療科＼曜日		月	火	水	木	金
内科	午前	勇　聡	勇　聡	勇　聡	勇　聡	三原通晴
		豊田直以	三原通晴	一森伸二	一森伸二	一森伸二
				市民病院呼吸器科	豊田直以	
循環器内科		廣田晋一	廣田晋一	熊大病院循環器科	廣田晋一	熊大病院循環器科
外科		石川晋之	松尾彰宣	内野良仁	松尾彰宣	石川晋之
整形外科		紫垣光久	紫垣光久	紫垣光久	紫垣光久	紫垣光久
		竹村　健一		竹村　健一	竹村　健一	竹村　健一
脳神経外科（第2・4木曜日）	午後				熊大病院脳外科	
禁煙外来		担当医(PM)	担当医(AM)	担当医(AM)	担当医(AM)	
午後　総合内科		担当医	担当医	担当医	担当医	担当医
フットケア外来					担当医	

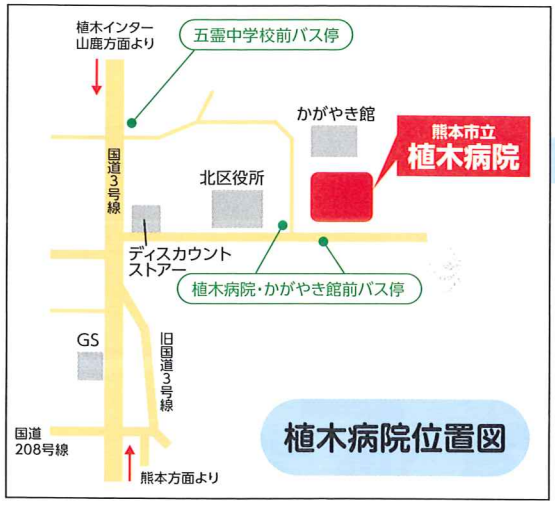
※　脳神経外科は第２・第４木曜日の午前中のみです。
※　水曜日午前の呼吸器専門外来は熊本市民病院からの派遣医のため、時間的制約があり、当日直接来院されても診察対応できない場合があるため事前の予約をお願いします。
※　当院では、再診予約制を取っております。診察時に次回予約を行って下さい。
また、予約変更の電話については、午後にお願いします。
※　午後の総合内科は内科系医師が担当します。

診察受付時間：平　日／ 8：30～11：30
14：00～16：00
休　診　日：土曜日・日曜日及び祝祭日
年末年始（12月29日から翌年1月3日）
※ 急患の方はこれに限らず24時間対応致します。

地域医療連携室のお知らせ

当院では、各医療機関との連携を推進しております。その窓口として「地域医療連携室」がございますので、ご活用くださいますようお願い申し上げます。

■地域医療連携室
電話：TEL096-273-2111（代表）
FAX096-272-2117（代表）



交通アクセス

路線バス　九州産交バス：北区役所・小野泉水　行
熊本電鉄バス：北区役所　行
いずれも「植木病院・かがやき館前」バス停で下車

循環バス　ゆうゆうバス（熊本電鉄バス）植木循環ルート
「植木病院・かがやき館前」バス停で下車

乗用車
・熊本市中心部より30分
・山鹿市中心部より30分
・九州自動車道　植木インターから10分

編集後記

このたびの熊本地震で犠牲になられた方々へ哀悼の意を表するとともに、被災されました皆様にお見舞い申し上げます。また、地震発生直後より多くの方々が復旧・復興に向けて奮闘されていることと存じます。未曾有の大地震となりましたが、例年と変わらず、これからの時期は、熊本の蒸し暑さ、台風が訪れることになります。これからも、今度の地震の教訓を糧として日常の診療業務の確保に努めてまいります。　Ｒｔ ナベシマ